

学会員（教員）研究動向 [2006.4～2007.3]

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
秋葉 武	論文 (単著 レフリー付)	「中間支援 NPO のサービスの多元化—企業者ネットワーキング理論を用いた分析」(『日本経営診断学会論集』 6 巻) 227-242頁	2006.10
	雑誌記事	「次代を切り拓くのは若い力— NPO は若者の受け皿になり得るのか?」(『NPO ジャーナル』 Vol.14) 3-5頁	2006. 7
	雑誌記事	「問われる地域の中間支援 NPO のマネジメント—組織の冬の時代に」(『同上』 Vol.16, 関西国際交流団体協議会) 46-48頁	2007. 1
	学会発表 (単独・国内)	「ソーシャル・マーケティングと経営」(日本経営診断学会第39回全国大会個別報告, 於: 流通経済大学)	2006. 9
	講 師	「ソーシャル・マーケティング I・II」(明治大学教育振興部/(特活)地域と協同の研究センター主催, 於: 明治大学)	2006. 9
	講 師 (基調講演)	「NPO と大学の協働」(「環境活動のための NPO と大学の協働・連携セミナー」(財ひょうご環境創造協会主催, 於: 神戸国際会館)	2007. 3
荒木 穂積	論文(単著)	「おわりに—京大乳幼児保育研究会のあゆみをたどって」(清水民子・高橋登・西川由紀子・木下孝司編『保育実践と発達研究が合うとき—まるととらえる子どもと生活』(かもがわ出版) 287-294頁	2006. 6
	論文(単著)	「アメリカにおける知的障害者の後期中等教育以降の教育— Chapel Haven 校の場合」(『障害者問題研究』 34巻 2 号, 全国障害者問題研究会出版部) 70-73頁	2006. 8
	論文(単著)	「Yale 大学子ども研究センター(2)」(『人間発達研究所通信』 22巻 2 号 (通巻106号), 人間発達研究所) 23-28頁	2006. 9
	論文(単著)	「田中先生を偲んで」(『同上』 22巻 2 号 (通巻106号)) 7-10頁	2006. 9
	論文(共著)	「中国における自閉症の治療と教育の現状について」(『立命館人間科学研究』 12号, 張鋭, 立命館大学人間科学研究所) 55-64頁	2006. 9
	論文(共著)	高機能自閉症児への教育的介入とふり遊びの発達— 3年間のプレイセラピーの分析から」(『心理教育相談センター年報』 5 号, 前田明日香・井上洋平, 立命館大学心理・教育相談センター) 3-20頁	2006.10
	論文(単著)	「個人の発達の系における『階層—段階理論』の提起とその魅力」(『土割の刻—田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい記念誌』(田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会編), クリエイツかもがわ) 46-62頁	2006.11
	論文(単著)	「Yale 大学子ども研究センター(3)」(『同上』 22巻 3 号 (通巻107号)) 5-11頁	2006.12
	論文(共著)	「京都の教育と田中昌人の足跡—『科障研』草創期と教育運動に果たした役割」(座談会 1) (『障害者科学』 54号, 藤本文朗・近藤秀利・松尾隆司, 科学的障害児教育研究会, クリエイツかもがわ発行) 3-17頁	2007. 1
	論文(共著)	「高機能自閉症・アスペルガー障害をもつ子どもの集団活動とその教育的対応—学齢期におけるごっこ遊びの分析から」(『障害者問題研究』 34巻 4 号, 梅山佐和・井上洋平・前田明日香・岩本彩子, 全国障害者問題研究会出版部) 70-73頁	2007. 2
	翻訳(監訳)	『自閉症スペクトラム 生き方ガイド—自己権利擁護と『障害表明』のすすめ』(森由美子訳, クリエイツかもがわ) 全260頁	2007. 2
	その他(共著)	「京都の教育と田中昌人の足跡—発達保障実践と『科障研』」(座談会 2) (『同上』 54号, 窪島務・久保田あや子・中山淑子・黒田学) 28-37頁	2007. 1
	その他(共著)	「人間の発達」(日本応用心理学会編『応用心理学事典』(編集代表岡村一成), 丸善) 76-77頁	2007. 1

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
荒木 穂積	著書(単編著)	『高機能自閉症児およびアスペルガー症候群児の早期発見と早期対応』(オープンリサーチ整備事業『臨床人間科学の構築』子どもプロジェクト, 『ヒューマンサービスリサーチ』4号, 立命館大学人間科学研究所) 全113頁	2007.3
	論文(単著)	「可逆操作の高次化における『発達の階層—段階理論』の意義と今後の課題」(『人間発達研究所紀要』18・19号合併号, 人間発達研究所) 2-16頁	2007.3
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児のための療育プログラム開発(1)—親の会: 親のニーズ分析」(『立命館人間科学研究』14号, 前田明日香・河野望・荒木美知子・森光彩・吉田美穂, 立命館大学人間科学研究所) 99-112頁	2007.3
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児のための療育プログラム開発(2)—幼児期: ふり遊びの分析から」(『同上』14号, 荒井庸子・松井真樹・張鋭・渋谷郁子・安松あず紗・中原咲子・荒木美知子・早川美紗・吉田有希) 113-126頁	2007.3
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児のための療育プログラム開発(3)—学童期: 「ごっこ」遊びの分析から」(『同上』14号, 梅山佐和・前田明日香・井上洋平・岩本彩子・内本純子・近藤千尋・飯田真理子・渡辺太郎・荒木美知子) 127-141頁	2007.3
有賀 郁敏	著書(共著)	「ドイツ初期協会運動の性格と役割—19世紀前半の西南ドイツを中心に」(山本徳郎他監修『多様な身体への目覚め—身体訓練の歴史に学ぶ』, アイオーエム社) 278-301頁, 全422頁	2006.10
池内 靖子	論文(単著)	“Performances of Masculinity in Angura Theatre: Suzuki Tadashi on the Actress and Satô Makoto's <i>Abe Sada's Dogs</i> ” (Edward Scheer and Peter Eckersall (eds.), <i>The Ends of the 60s: Performance, Media and Contemporary Culture</i> , Selected Essays from <i>Performance Paradigm: A Journal of Performance and Contemporary Culture Issues 1 and 2</i> , pp. 8-27.) (Published by Faculty of Arts and Social Sciences, UNSW and Performance Paradigm 8-27頁	2006.8
	論文(単著)	「アイデンティティ (脱) 構築の迷路—寺山修司の『田園に死す』を中心に」(『立命館言語文化研究』18巻2号, 立命館大学国際言語文化研究所) 31-43頁	2007.3
	その他(単著)	「『糸地獄』における対抗的語りと身体性—『母殺し』を超えて」(『シアターアーツ』28号, 発行: AICT [国際演劇評論家協会] 日本センター, 発売: 晩成書房) 58-63頁	2006.9
	学会発表 (単独, 国外)	“Staging a Korean Diasporic Artist's Text, <i>Dictée</i> at an Alternative Space in Kyoto” (In a Panel Titled: Producing Public spaces for Creative and Critical Dialogue: Performance as a Site for Post-Colonial and Gender-Critique in Japan, for the Performance Studies International Conference no 12. (PSi#12: Performing Rights)), 国際パフォーマンス学会, 於: クイーンメアリー, ロンドン大学	2006.6.14 -18
	学会発表 (単独, 国外)	“Feminist aesthetics in Kishida Rio's theatre and film texts,” (In a Panel: Gender, Globalisation and Performance: Ono Yôko, Kishida Rio and Mori Mariko, under the 2006 conference theme, 'TWENTY-FIRST CENTURY FEMINISMS,' for the AUSTRALIAN WOMEN'S STUDIES ASSOCIATION (オーストラリア女性学大会: AWSA), クイーンズランド大学, モナシュ大学共催, 於: メルボルン)	2006.7.9 -12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石倉 康次	著書(共編著)	『アルツハイマー病者の自助グループ活動及び支援活動に関する比較研究』(平成16～18年度科学研究補助金(基盤研究 c) 研究成果報告書) 126頁	2007. 3
	著書(共編著)	鈴木良他『大阪府「旧同和地区」実態調査と人権意識調査について』(部落問題研究所) 69頁	2007. 3
	論文(単著)	「地域における人権課題と調査をめぐって」(『部落問題研究』176号) 157-167頁	2006. 6
	論文(単著)	「大阪府人権意識調査の虚実」(『人権と部落問題』2007年2月特別号) 80-110頁	2007. 2
	論文(単著)	「認知症の人の人権と介護視点の転換」(『人権と社会』2号) 17-30頁	2007. 3
	学 会 報 告	「認知症介護の転換—介護者重視の対処から認知症の人の障害支援へ」(2006年神経科学新進展国際シンポジウム, 北京)	2006.10
伊藤 隆司	論文(単著)	「子どもの詩への期待と教科書教材の問題点」(『語り合う文学教育』, 5号, 語り合う文学教育の会) 13-18頁	2007. 2
伊東 寿泰	学 会 発 表 (単独)	「良い翻訳とは何か? : ヨハネ福音書関係の翻訳をめぐって」(第32回日本聖書翻訳研究会, 於: 日本聖書協会, 東京)	2006.11
乾 亨	論文(共著)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(1)」(延藤・小杉・森『日本建築学会2006年度大会学術講演梗概集(計画系Ⅱ)』) 273-274頁	2006. 9
	論文(共著)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(2)」(延藤他『同上』) 275-276頁	2006. 9
	論文(共著)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(3)」(小杉他『同上』) 276-277頁	2006. 9
	論文(共著)	「住生活の経年変化と住戸改造の特徴 ユーコート20年にみる人間—空間関係変容の軌跡(1)」(安井他『同上』) 111-112頁	2006. 9
	論文(共著)	「住生活の経年変化と住戸改造の特徴 ユーコート20年にみる人間—空間関係変容の軌跡(2)」(森永他『同上』) 113-114頁	2006. 9
	論文(単著)	「20年経ったいま、『ユーコート』という場を読み直す」(第15回都市環境デザインフォーラム・関西 デザインの力) 27-33頁	2006.11
	論文(単著)	「真野暴迫運動見聞記」(『スクラム組んで～暴力団組事務所追放まで297日間の記録』, 暴力団組事務所追放等協議会) 88-92頁	2007. 3
	論文(単著)	「地域まちづくりの新しい担い手—求められる『地縁も志縁も』型組織」(『都市研究京都』20, 京都市総合企画局政策推進室政策企画課) 57-70頁	2007. 3
	論文(単著)	『ふつうのまち』のまちづくりのススめ—京都市梅津学区」(『季刊まちづくり』14) 93-99頁	2007. 3
	論文(共著)	『「活き活きた人生」を創出する高齢者のための居場所づくり』(乾亨(主査)・延藤安弘・藤田忍, 住宅総合研究財団研究論文集) 全33頁	2007. 3
	調 査 報 告 (共著)	「集合住宅における共用空間のコミュニティ形成力の検証及び住替え方策の検討業務・調査報告書」(NPO 法人まちの縁側育み隊・集住研究会著(延藤安弘・乾亨他), NPO まちの縁側育み隊)	2007. 3
	研 究 発 表 (共同: 主, 国内)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(1)」(2006年 日本建築学会大会, 於: 東京)	2006. 9

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
乾 亨	研究発表 (共同,国内)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(2)」(同上)	2006.9
	研究発表 (共同,国内)	「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(3)」(同上)	2006.9
	研究発表 (共同,国内)	「機嫌よう暮らせるまちにしようやないか—地域コミュニティが支えるまちづくり」(まちづくりシンポジウム in 福岡)	2006.11
	研究発表 (共同,国内)	「共振し生き続けるデザイン」(第15回都市環境デザインフォーラム・関西)	2006.11
	研究発表 (共同,国内)	「機嫌よう暮らせるまちにするために—わがまちへの愛着をはぐくみ地縁を活かす」(大阪府地域づくり団体協議会第17回講演会)	2007.1
	研究発表 (共同,国内)	「協働でつくる高齢者のいきいき居場所—イタリアと日本に見る市民の力・地域の力」(ボランティア活動研究交流会議2007)	2007.3
文 楚雄	著書(単著)	『中国のことばと文化・社会』(時潮社)全349頁	2006.9
	論文(単著)	生活と文化—流行り謡から見た現代中国の生活(飯田哲也・坪井健共編『現代中国生活の変動』,時潮社)178-202頁	2007.4
	研究発表 (単独)	「日本語から取り入れた中国語の新語」(中国語彙学会第6回全国大会,於:中国・吉林大学)	2006.8
遠藤 保子	論文(共著)	「青少年を支援する専門職(ユースワーカー)養成と力量形成—(ランカスター大学セント・マーチンズ・カレッジのカリキュラムを中心として)」(『立命館人間科学研究』12号)45-54頁	2006.9
	論文(単著)	「現代アーティスト嶋本昭三とパフォーマンス」(『立命館産業社会論集』42巻2号)109-123頁	2006.9
	論文(単著)	「舞踊,アフリカの舞踊」(平凡社『最新スポーツ科学事典』)758-761頁,798-802頁	2006.9
	論文(共著)	‘Nigerian Dances and Motion Capture’ (“ <i>Human Body Motion Analysis with Motion Capture</i> ” 21 st Century COE Program Kyoto Art Entertainment Innovation Research, Ritsumeikan University) pp.87-94	2006.12
	論文(単著)	「エチオピア南部コエグの人々から学ぶもの」(『女子体育』49巻1号,社団法人日本女子体育連盟編)10-13頁	2007.1
	論文(単著)	「ケニアの舞踊—ボーマス・オブ・ケニアを中心として」(『スポーツ人類学研究』7・8号,日本スポーツ人類学会)43-50頁	2007.3
	調査報告 (共著)	「モーションキャプチャを利用した舞踊動作のデジタルアーカイブ化事業」(2005年度国際交流基金文化財保存助成事業報告書)全約40頁	2006.5
	実践報告 (共著)	「ユースサービスの方法とユースワーカー養成のプログラム開発—ユースワーカー養成に関する研究会の議論から」(『立命館人間科学研究』14号)85-98頁	2007.3
	学会発表	「アフリカの舞踊に関するデジタルアーカイブ化の試み—(ナイジェリアの舞踊を事例として)」(韓国スポーツ人類学会第2回大会,於:韓国国立江原大学三陟キャンパス)	2006.5
	研究発表 (コメンテーター)	「金剛山歌劇団の民族舞踊伝承に関する研究—Diaspora文化研究の視点から」(第9回舞踊学会例会 於:東洋英和女学院大学六本木キャンパス)	2007.3
	学会発表	「モーションキャプチャを利用した舞踊動作のデジタルアーカイブ化研究」(日本スポーツ人類学会第8回大会,於:九州国立博物館)	2007.3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷いづみ	論文(単著)	『「生と死の教育」のゆくえ』(『人権教育研究』6号, 日本人権教育研究学会) 4-7頁	2006. 8
	翻訳(単訳)	「生命倫理教育Ⅲ. 中等教育およびそれ以後の教育」「生命倫理教育Ⅳ. 他の保健医療専門職」(生命倫理百科事典翻訳刊行委員会編, 日本生命倫理学会編集協力『生命倫理百科事典』第Ⅲ巻, 丸善) 1939-1943頁	2007. 1
	書評(単著)	「文献紹介 島藺進著『いのちの始まりの生命倫理—受精卵・クローン胚の作成・利用は認められるか』(春秋社, 2006年1月)」(『日本生命倫理学会ニューズレター』No.33, 日本生命倫理学会) 4-5頁	2006.10
	学 会 発 表 (単独)	「刑法分野における「尊厳死」概念の生成—1970～1980年代前半の「刑法総論・各論」の分析を中心に」(日本保健医療社会学会第32回大会, 於: 立教大学)	2006. 5
	学 会 発 表 (単独)	「1970年代法分野「安楽死」論における米国の death with dignity 概念の翻訳導入をめぐる問題」(第25回医学哲学・倫理学会, 於: 大阪大学豊中キャンパス)	2006.10
	学 会 発 表 (単独)	「法学専門誌における「尊厳死」概念生成期の議論」(第18回日本生命倫理学会, 於: 岡山大学)	2006.11
	研究会発表 (単独)	「〈「生と死の教育」の組み替え〉から〈「尊厳死」言説の誕生〉へ」(現代医療研究会第4回定例研究会, 於: 早稲田大学)	2006. 9
岡田 まり	論文(単著)	「総合相談の実践」(社団法人日本社会福祉士会地域包括支援センターにおける社会福祉士実務研修委員会編『地域包括支援センターのソーシャルワーク実践』, 中央法規) 55-67頁	2006. 7
	調 査 報 告 (共著)	「精神障害者の QOL (生活の質) と地域生活支援に関する研究」平成15～17年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (2)) 研究成果報告書) 26, 59-84頁	2007. 3
	学 会 発 表 (単独, 国内)	「ソーシャルワークの研究方法論」(シンポジウムⅡ『ソーシャルワークの研究方法論』, 日本社会福祉実践理論学会第23回大会, 別府国際コンベンションセンター (ビーコンプラザ))	2006. 6
	学 会 発 表 (単独, 国内)	「根拠に基づくソーシャルワーク実践をめざして—精神障害者の生活支援についての研究をととして」(学会企画シンポジウム—1『時代を切り拓く社会福祉研究』, 日本社会福祉学会第54回全国大会, 於: 立教大学新座キャンパス)	2006.10
	学 会 発 表 (共同, 国内)	「精神障害者が地域生活支援において当事者スタッフが専門職チームに参加する意義」(第65回日本公衆衛生学会総会, 富山県民会館・富山国際会議場)	2006.10
	学 会 発 表 (共同, 国内)	「精神障害者の地域生活支援において専門職チームに当事者スタッフが参加するための課題」(日本精神障害者リハビリテーション学会第14回富山大会, 富山国際会議場・富山市民プラザ)	2006.11
小川 栄二	著書(共著)	「ホームヘルパーの援助技法を高める事例検討の進め方」(ホームヘルパー全国連絡会, 萌文社) 7-24頁	2006.12
	著書(共著)	『在宅支援の困難事例と対人援助技法—場面再現記録法によるホームヘルプ実践の理論化に向けて』(小松啓, 対人援助研究会, 萌文社) 7-11頁, 153-156頁	2007. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小川 栄二	論文(単著)	「要援護高齢者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題に関する調査報告書」(立命館大学医療福祉エンパワーメントプロジェクト) 51-64頁	2006. 7
	論文(共著)	「質的研究法によるホームヘルプ機能の概念化に関する研究」(小松啓, 『介護福祉学』Vol.13/No.2, 日本介護福祉学会) 162-182頁	2006.10
	研 究 発 表	「ホームヘルパー事例研究法の開発—ホームヘルパー全国連絡会1000の事例研究会によるホームヘルパー経験則再構築の課題」(日本社会福祉実践理論学会第23回大会)	2006. 7
奥村 信幸	論文(単著)	'Japan's Media Fiefdom — Mainstream Press is Covertly Disturbing People's Free Access to Information by Monopolizing Daily Interviews with Media-Savvy Prime Minister' (『立命館産業社会論集』42巻2号) 59-70頁	2006. 9
	そ の 他 (新聞特集記事)	「すっきりエコノ案内人—放送と通信の融合」(『京都新聞』2006年8月6日(日)10面(経済))	2006. 8
	ゲストスピーカー	「コイズミ以降のテレポリティクスとジャーナリズムの危機」(第68回PRANJ(政策海外ネットワーク)ワークショップ, 於 CSIS(戦略国際問題研究所:米ワシントン DC))	2006. 3
小原 豊	著書(共編著)	" <i>Japanese Lesson Study in Mathematics at a Glance: Its impact, diversity and potential for educational improvement</i> " (World Scientific) 全238頁	2006. 5
	著 書 (分担執筆)	『サイレントレボリューション—ITによる脱ニート・脱フリーター』(「第6章 新たなIT利活用の展望と生涯学習の高まり」, ぎょうせい) 全199頁, 181-197頁	2006. 5
	論文(単著)	'On the Significance of Alternative Mathematics in a School context' (Research Bulletin of Naruto University of Education, Vol.21, Naruto University of Education) 175-182頁	2006. 3
	論文(単著)	'A Perspective of IT-Related Human Resource Development in International Educational Cooperation: Focus on the Lesson Archives' (NUE Journal of International Educational Cooperation, Vol.1, Naruto University of Education) 63-69頁	2006. 3
	論文(単著)	「小学校児童による有理数の乗法における乗数効果の分析」(『鳴門教育大学研究紀要』22巻, 鳴門教育大学) 206-215頁	2007. 3
	調 査 報 告 (単著)	「目的意識をもって数学授業をみる」(『教育科学数学教育』No.585, 明治図書) 24-25頁	2006. 8
	学 会 発 表 (単著)	「学校数学における創造的な学習指導の展望と創造性育成」(日本科学教育学会第30回大会, 於:筑波学院大学) 81-82頁	2006. 8
	学 会 発 表 (単著)	「開発途上国への国際教育協力の展望と課題—青年海外協力隊支援の在り方とその諸問題について」(同上) 529-530頁	2006. 8
	学 会 発 表 (単著)	「熟練した算数・数学教師による関心・意欲・態度の評価手法の特徴」(数学教育学会2006年度秋季例会, 於:大阪市立大学) 95-96頁	2006. 9
	学 会 発 表 (単著)	「1人の生徒を通してみた well-defined な数学の構成の実相: O! の定義を事例に」(数学教育学会2006年度秋季例会, 於: 同上) 51-52頁	2006. 9
	学 会 発 表 (単著)	「熟練教師がもつ関心・意欲・態度の評価観について」(日本教育実践学会第9回研究大会, 於: 鳴門教育大学) 123-124頁	2006.11

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小原 豊	学会発表 (単著)	「開発途上国に対する IT 教育協力の課題と展望」(同上) 111-114頁	2006.11
角田 将士	論文(単著)	「『社会からのわかり方』に基づいた社会科授業の復権—人口減少社会におけるキャリア形成に向けて」(『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』2号, 日本社会科教育学会編) 222-223頁	2006.10
	論文(単著)	「体験と省察を基軸にした教員養成カリキュラムの充実のために(1)—授業構成能力の育成による『大学』性の確立」(『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部, 55号, 広島大学大学院教育学研究科編) 87-95頁	2007. 3
	論文(単著)	「高等学校地理歴史科『日本史』単元の開発(2)—終結単元『日本近代史から何が学べるか』」(『学校教育実践学研究』13巻, 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編) 203-210頁	2007. 3
	論文(単著)	「日本史の場合」(『“法” 授業設計のためのストラテジー—高等学校地理歴史科・公民科の場合』, 法関連教育授業開発研究会編) 34-43頁	2007. 3
	調査報告 (単独)	「第Ⅵ章 外部評価委員による評価」(『メンター制構築による実践的指導力の高度化—大学院学生の教科授業力・生徒指導力の育成を中心として』, 広島大学大学院教育学研究科編) 301-304頁	2007. 3
	学会発表 (単独)	「『社会からのわかり方』に基づいた社会科授業の復権—人口減少社会におけるキャリア形成に向けて—」(日本社会科教育学会第56回全国研究大会, 課題研究発表, 於: 秋田大学)	2006.10
	学会発表 (単独)	「戦後初期歴史教科書『くにのあゆみ』における歴史認識形成の論理—戦後歴史教育論研究Ⅰ」(全国社会科教育学会第55回全国研究大会, 自由研究発表, 於: 福井大学)	2006.10
小泉 秀昭	論文(単著)	「広告論」(武井寿・岡本慶一編著『現代マーケティング論』, 5章, 実業出版株式会社) 77-93頁	2006. 4
	論文(単著)	「広告取引に関する現状と課題—広告会社の報酬制度に関する欧米の研究と我が国の実態調査」(『立命館産業社会論集』42巻4号) 107-121頁	2007. 3
	学会発表 (単独, 国内)	「広告メディア取引における新基準への方向性—メディア・エンゲージメントに関する考察」(日本広告学会第37回全国大会, 於: 専修大学)	2006.11
斎藤 真緒	論文(単著)	「少子化対策における生殖技術と『近代家族』—現代日本の再生産をめぐるポリティクス」(『立命館産業社会論集』42巻1号) 243-255頁	2006. 6
	論文(単著)	「セクシュアルヘルスプロモーションの射程—新しいアジェンダとしての若者のセクシュアルヘルスを中心に」(『立命館人間科学研究』14号) 167-181頁	2007. 3
	翻訳(共訳)	『テキストとコンテクスト』(見洋書房) 全232頁	2006. 5
坂田 謙司	研究ノート (単著)	「コミュニティ FM を巡る研究視点の再整理—営利・非営利を超えた議論活性化のための一考察」(『立命館産業社会論集』42巻4号) 155-163頁	2007. 3
	学会ワーク シ ョ ッ プ (共同)	「NPO によるコミュニティ FM の現状と展望—その公共性と財源・運営」(日本マス・コミュニケーション学会2006年度春期研究発表大会) 於: 関西大学	2006. 6
	学会ワーク シ ョ ッ プ (共同)	「コミュニティ FM はなぜ市民メディアなのか?」(社会文化学会課題研究 B) 於: 立命館大学	2006.12

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
坂本 利子	報告書(単著)	『遠隔交流授業における異文化理解と異文化コミュニケーション教育の研究』(平成16-18年度科学研究費補助金成果報告書(研究代表))	2007.3
	翻訳(共訳)	「過去からのスナップ写真—新しい未来を築くために、過去の痛みを認めること」(大阪外国語大学グローバル・ダイアログ研究会編『痛みと怒り—圧政を生き抜いた女性のオーラル・ヒストリー』, 明石書店)	2006.5
崎山 治男	論文(単著)	「心理主義化への同調と抗い」(『ソシオロジ』51-3号, ソシオロジ編集委員会(社会学研究会)) 152-154頁	2007.2
	論文(単著)	「社会病理診断と介入のはざままで(研究動向・社会病理)」(『社会学評論』57-4号, 日本社会学会) 809-821頁	2007.3
	シンポジウム 講演(単独)	「感情「社会学」という暴力—「生きられた感情」と記憶をめぐる」(関西学院大学21世紀 COE プログラム「人類の幸福に資する社会調査」ワークショップ)	2006.11
櫻谷真理子	その他(単著)	「育児時間」「子育てサークル」「子育てネットワーク」「子育て支援」「子育て支援事業」「次世代育成支援地域行動計画」「心理判定員」「健やか親子21」「多問題家族」「つどいの広場事業」「特別保育事業」「乳幼児健康支援一時預かり事業」「ファミリーサポートセンター事業」「父子手帳」「親業」「家庭崩壊」「家族福祉」「家庭支援専門相談員」(保育小辞典編集委員会編『保育小辞典』, 大月書店)	2006.6
佐々木嬉代三	著書(共編著)	『社会病理のリアリティ』(学文社) 全208頁	2006.10
佐藤 嘉一	訳書(共訳)	ハーバーマス著『テクニストとコンテクスト』(佐藤嘉一・井上純一・赤井正二・出口剛司・斎藤真緒, 晃洋書房) 27-43, 83-90頁	2006.12
	論文(単著)	'Life-world and the Theory of Social Action in the 1940s, the Correspondence of Schutz with Parsons and Gurwitsch' (『立命館産業社会論集』42巻3号) 47-65頁	2006.12
篠田 武司	論文(単著)	「オーレスン(オアスン) 地域における地域統合とガバナンス—スウェーデン・デンマーク間の国境を越える地域統合」(若森章孝編『国境を越える地域経済ガバナンス・EU 諸地域の選考例を中心とした比較研究』科研補助金報告書) 22-34頁	2006.4
	論文(単著)	「分極化する社会を越えて—社会結束の危機と社会関係資本」(『立命館産業社会論集』特別号(128号)) 188-200頁	2006.4
	論文(単著)	「市場競争社会の中の生協と生協職員」(『連帯』184号, 京都大学生協事業連合) 36-54頁	2006.6
	論文(単著)	「北欧の教育—スウェーデンをみる」(『日本の私立大学』17号, 日本私大教連) 54-56頁	2006.11
	論文(単著)	「スウェーデンの高等教育—自立と平等にもとづく『知の共同体』」(『大学と教育』45号, 東海高等教育研究所) 34-49頁	2007.3
	その他(単著)	「第三者意見」(『東芝テックグループ CSR 報告書2006』) 51頁	2006.7
芝田 英昭	著書(単著)	『新しい社会保障の設計』(文理閣) 全254頁	2006.10
	論文(単著)	「医療制度への市場原理導入は、亡国への道」(『民医連医療』No.205, 全日本民主医療機関連合会) 46-59頁	2006.5
	論文(単著)	「2006年医療制度改革と医療への市場原理導入の課題」(『立命館産業社会論集』42巻1号) 183-205頁	2006.6

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
杉本通百則	論文(単著)	「リサイクル成立の経済的条件—資本による耐久消費財のリサイクルの特質」(『大阪市大論集』115号, 大阪市立大学大学院経済・経営学研究会) 1-24頁	2006. 8
	学 会 発 表 (単独, 国内)	「1930年代のアメリカにおけるアスベスト紡織工場の集塵技術と測定技術」(日本科学史学会技術史分科会, 於: 大阪市立大学)	2007. 3
高木 正朗	論文(共著)	「近世国家の人口減対策—19世紀一閩藩の政策とその結果」(『立命館大学人文科学研究所紀要』88号, 立命館大学人文科学研究所) 133-168頁	2007. 3
	資料集(編集)	『陸奥国一閩藩領内旧村古文書目録Ⅱ』SDDMA 仙台藩・一閩藩地方資料〔Ⅳ〕(立命館大学人文科学研究所) 全389頁	2007. 3
	新 聞 記 事 (単著)	「江戸期の推移を復元—200年間に2回の急増」『人口減社会 地域の先例に学ぶ—一閩藩・狐禅寺村研究(1)』(岩手日日新聞) 14面	2006. 6
	学 会 発 表 (オーガナイザー: 共同, 国内)	「歴史人口学のバックグラウンド—陸奥国村落のマイクロデータ分析」(「第75回 全国大会報告要旨」, 第75回社会経済史学会全国大会 2006. 9.15, 於: 関西大学) 62-65頁	2006. 9
	学 会 発 表 (オーガナイザー: 共同, 国内)	「19-20世紀日本の人口と社会・経済構造—東北地方の飢饉・収奪・貧困分析」(「第79回日本社会学会大会報告要旨集」, 第79回日本社会学会大会2006.10.28, 於: 立命館大学) 153-156頁	2006.10
高嶋 正晴	論文(単著)	「山口県内における国際観光客の受入れについて—現状, 政策, 取組」(『産業文化研究所所報』, 下関市立大学附属産業文化研究所) 3-24頁	2006.12
	論文(単著)	「東アジア経済交流推進機構と閩門地域」(『閩門地域研究』16) 73-97頁	2007. 3
	研 究 発 表 (単独, 国内)	「閩門地域と東アジア ii) 物流拠点機能の観点から②—国際フェリー—航路の意義」(閩門地域共同研究会・成果報告会)	2006. 6
竹内 謙彰	論文(共著)	'Mental Rotation Test performance in four cross-cultural samples (N=3367): Overall sex differences and the role of academic program in performance' (Cortex, Vol.42, Issue 7, Masson) pp.1005-1014	2006.10
	論文(単著)	「女性に道に迷いやすいか?」(『ハンディキャップと都市空間—地理学と心理学の対話』(岡本耕平・若林芳樹・寺本潔編『ハンディキャップと都市空間—地理学と心理学の対話』, 古今書院) 127-141頁	2006.12
	論文(単著)	「発達指標としての『心の理論』課題—実行機能の役割に焦点を当てて」(『愛知教育大学研究報告(教育科学編)』56輯) 87-94頁	2007. 3
	学 会 発 表 (単独, 国内)	「空間能力の個人差と経験諸変数との関連再考」(『日本心理学会第70回大会発表論文集』, 日本心理学会第70回大会, 2006.11.3-5.) 1143頁	2006.10
竹濱 朝美	論文(単著)	'The Significance of Food Assurance Schemes in the UK, Requirements for Food Safety and Their Credibility, Part 1' (『立命館産業社会論集』42巻1号) 223-241頁	2006. 6
	論文(単著)	'The Significance of Food Assurance Schemes in the UK, Requirements for Food Safety and Their Credibility, Part 2' (『立命館産業社会論集』42巻2号) 45-58頁	2006. 9
	論文(単独)	『食品トレーサビリティの信頼性確保における農産物プライベート・ブランドの研究』, (平成16-17年度, 科学研究費補助金・基盤研究C, 研究成果報告書), (課題番号16530286) 1-81頁	2006. 5
	そ の 他 (事典項目)	「グリーンコンシューマー」, 日本流通学会編・加藤義忠監修, 『現代流通事典』所収, 234-235頁	2006.10
	研 究 発 表 (単独, 国内)	「危険な気候変動の現状, 温室効果ガス削減のための消費者政策」(日本消費者経済学会西日本大会)	2006.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
辻 勝次	編 著 書	『キャリアの社会学』（ミネルヴァ書房）全269頁	2007. 3
	研究報告書	「新しい職業能力と職業経歴の動向に関する研究」（科研費成果報告書（研究代表））216頁	2007. 3
	論文(単著)	「人事空間概念とその構造, 構成要素」（『立命館産業社会論集』42巻1号）115-136頁	2006. 6
津田 正夫	共 編 著	『新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために』（「序章 今なぜパブリック・アクセスか」, 「15章 市民メディアの課題」, 世界思想社）序章1-17頁, 15章273-293頁	2006. 4
	論文(単著)	「市民アクセスの地平（下）—失われた表現とコミュニケーションの回復を求めて」（『立命館産業社会学論集』42巻2号）25-43頁	2006. 9
	研究ノート （単著）	「コミュニケーションをつくりだす力」をめぐって—メディア発信の臨界の周縁から」（『同上・鈴木みどり追悼特集』42巻4号）137-154頁	2007. 3
	研究ノート （単著）	「市民メディア」による新たな公共圏の可能性—「市民メディア全国交流集会06 in 横浜」によせて」（『メディアと文化』3号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究所）129-139頁	2007. 3
	報 告 書	「市民メディアサミット06（第4回市民メディア全国交流集会 in よこはま）」（セッション報告書『パブリック・アクセスの制度化を展望する』	2006.12
	ゲストスピーカー	「パブリック・アクセスの制度化を展望する」（第4回市民メディア全国交流集会, 於：横浜市開港記念館）	2006. 9
	ゲストスピーカー	ワークショップ「市民ジャーナリズム」の課題と展望」（日本マス・コミュニケーション学会2006年度秋季研究発表会, 於：成蹊大学）	2006.11
筒井 淳也	著書(単著)	『制度と再帰性の社会学』（ハーベスト社）全196頁	2006. 5
	著書(共著)	『Stata で計量経済学入門』（平井裕久, 秋吉美都, 水落正明, 坂本和靖, 福田亘孝, ミネルヴァ書房）1-60頁	2007. 2
	論文(単著)	「結婚・出産タイミングはその後の結婚生活に影響を与えるか?」（『夫婦, 世帯, ライフコース：第2回 家族についての全国調査（NFRJ03）2-1』（第2次報告書 No.1）103-116頁	2006. 4
	論文(単著)	「社会関係資本論の理論的位置づけ：効率性と公平性の観点から」（『立命館産業社会論集』42巻4号）123-135頁	2007. 3
	論文(単著)	「少子化と結婚：きょうだい数の減少のおよぼす影響」（『SSJDA リサーチペーパーシリーズ』, 37）59-80頁	2007. 3
津止 正敏	著書(共著)	『男が介護するということ—男性介護者インタビュー調査報告書』（立命館大学人間科学研究所）116頁	2007. 1
	講演録(単著)	「いきいきとボランティア活動—安心してらせる市民社会のために」（きづき・きっかけ・きずなボランティア2006報告書, 滋賀県社会福祉協議会）1-7頁	2007. 3
	学 会 発 表 （単独）	「ボランティアチャレンジドケースの構造把握に関する研究」（日本地域福祉学会第20回大会要旨集, 日本地域福祉学会第20回大会）186頁	2006. 6
出口 剛司	訳書(共訳)	『テキストとコンテキスト』（J. ハーバーマス著, 晃洋書房）全232頁	2006. 5
	学 会 発 表 （単独, 国内）	「ユダヤ的アイデンティティとは何か?」（社会文化学会第9回全国大会, 於：立命館大学）	2006.12. 3
中井 美樹	論文(単著)	「複数のカテゴリ変数の類似性を検討する：双対尺度法と数量化Ⅲ類—趣味と文化的慣習行動」（与謝野有紀他編『社会の見方, 測り方：計量社会学への招待』, 勁草書房）296-302頁	2006. 7

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中井 美樹	論文(単著)	‘Women’s Occupational Mobility and Segregation in the Labour Market: Asymmetric Multidimensional Scaling’ (Decker, R. and H.-J. Lenz (eds.) Advances in Data Analysis, Springer-Verlag, Heidelberg-Berlin) pp.473-480	2007
	論文(単著)	「社会調査士資格に関わるプログラムの展開と課題」(『社会情報』Vol.16, No.2) 75-85頁	2007
	論文(共著)	「現代女性の就労・家族・地域生活—京都市女性調査データにみる女性の仕事と家庭をめぐる現状と課題—」(『立命館産業社会論集』42巻3号) 143-164頁	2006.12
	学会報告 (単独, 国外)	‘Career Mobility over the Life Course among Women in Japan’ (IFCS2006, University of Ljubljana, July 25-29, 2006.)	2006
	学会報告 (単独, 国外)	‘Social stratification, social mobility and inequality in Japan’ (International Workshop on Superpowers, regions, and nations: East-West Perspectives from the viewpoint of Cultural, Moral, and Political Economy, Lancaster University, March 26, 2007.)	2007
長澤 克重	論文(単著)	「産業・職業分類の変容」(『統計学』, 経済統計学会) 78-87頁	2006. 6
	研究発表 (単独, 国内)	「狐禅寺村の生命表—人口統計分析」(社会経済史学会第75回全国大会, 於: 関西大学)	2006. 9
	そ の 他	「人口減社会 地域の先例に学ぶ 一関藩・狐禅寺村研究②」(岩手日日新聞, 2006年6月7日付)	2006. 6
仲間 裕子	著書(単著)	『C.D. フリードリヒ 《画家のアトリエからの眺め》—視覚と思考の近代』(三元社) 全258頁	2007. 3
	訳書(共訳)	『ドイツ・ロマン派風景画論—新しい風景画への模索』(三元社) 全115-137, 165-200頁	2006.11
中 村 正	論文(単著)	「動機づけられていないクライアントへのグループワーク—DV加害男性と共に」(『精神看護』vol.9, no.3, 医学書院) 55-59頁	2006. 6
	論文(書評)	「〈臨床〉から〈臨場〉へ—開かれた臨床の視座」(『現代の社会病理』21号, 日本社会病理学会) 137-146頁	2006.10
	論文(単著)	「DV加害への司法臨床—司法臨床社会学の視点から」(『現代のエスプリ』472号, 至文堂) 107-119頁	2006.12
	論文(単著)	「家庭の中の暴力と社会病理—『行動化としての暴力』の脱学習へ」(山元公平他編『社会病理のリアリティ』, 学文社) 175-197頁	2007. 1
中山 一樹	論文(単著)	「「人間力」に託する追いつめられた思考」(『唯物論研究年誌』11号, 青木書店 唯物論研究協会) 324-329頁	2006.11
浪田 陽子	論文(単著)	“Pulling Back the Curtain: Corporate Media as Suppliers of Media Education Resources.” (Educational Insight, Vol.10 No.2, http://www.ccfi.educ.ubc.ca/publication/insights/v10n02/html/namita/namita.html , Centre for Cross Faculty Inquiry, The University of British Columbia)	2006.12
	調査報告 (単著)	「ブリティッシュ・コロンビア州教員ストライキの経過と影響」(『カナダ教育研究』4号, カナダ教育研究会) 63-64頁	2006. 5
	学会発表 (単独, 国外)	“Media Literacy for Democracy: A Critical Analysis of Media Education’s New Challenges” (Western Social Science Association (WSSA) 48th Annual Conference of Western Social Science Association (WSSA), Phoenix, Arizona, U.S.A.)	2006. 4

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
浪田 陽子	学会発表 (単独, 国外)	“Media Education Across Curriculum: A Proposal for Integrating Media Literacy into Teacher Education” (Canadian Society for the Study of Education (CSSE) 34th Annual Conference of the Canadian Society for the Study of Education (CSSE), Toronto, Ontario, Canada)	2006.5
野田 正人	論文(単著)	「子ども虐待とスクールソーシャルワーク」(『子ども虐待とネグレクト』8巻2号, 日本子ども虐待防止学会) 190-194頁	2006.9
	論文(共著)	「日本臨床心理士の培養之道」(『蘇州科技学院学報 社会科学版』23号, 蘇州大学科学技術学院) 108-111頁	2006.11
原尻 英樹	論文(単著)	「『嫌韓流』にみる日本定住コリアンのイメージ: 朝鮮蔑視観と自己中心性の病」(『アジア遊学 世界のコリアン』No.92, 勉誠出版) 10-19頁	2006.10
	論文(単著)	「済州島(韓国)と壱岐島(日本)との宗教観念の比較: 海域におけるコミュニケーション可能な文化」(『同上』No.92) 148-159頁	2006.10
	巻頭言(単著)	「必要とされている他者理解と自己理解」(『同上』No.92, 勉誠出版) 2-7頁	2006.10
東 自由里	調査報告 (単編著)	『地域博物館のグローバル連携が創り出す歴史教育事業の可能性』(日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 成果報告書, 2002年度～2005年度) 全292頁	2006.4
	書評(単著)	「アンドレーア・シュタインガルト著『ベルリン〈記憶の場所〉を辿る旅』(昭和堂出版社)」(京都新聞, 日曜版) 13頁	2006.5
	その他(単著)	「現代のことば: 履歴書の写真」(『京都新聞』, 夕刊) 4頁	2006.8.29
	その他(単著)	「現代のことば: 事件現場の記憶」(『同上』, 夕刊) 6頁	2006.10.24
	その他(単著)	「現代のことば: リアクション」(『同上』, 夕刊) 2頁	2006.12.21
	その他(単著)	「現代のことば: ハウスメイト」(『同上』, 夕刊) 2頁	2006.2.27
	学会発表 (単独, 国外)	“Reshaping the Landscape Images and Memory in Textbooks” (International Conference on Cultural Memory and Cultures in Transition, Vilnius University, Lithuania)”	2006.5
深澤 敦	書評(単著)	「松村高夫著『イギリスの鉄道争議と裁判—タフ・ヴェイル判決の労働史』」(『史学雑誌』115編・9号, 東京大学文学部内・史学会) 99-108頁	2006.9
	伝記(単著)	“RENAULT Alexandre, Joseph” (<i>Cheminots engagés: 9500 biographies en mémoire, XIX^e-XX^e siècles</i> , sous la direction de Marie-Louise Goergen, Les Éditions de l'Atelier, Paris) Cédérom, pp. 8416-8417	2007.4
宝月 誠	論文(単著)	「社会学知の可能性—シカゴ学派を事例にして」(高橋三郎・ほか編『学問の小径—社会学, 哲学, 文学の世界』, 世界思想社) 91-105頁	2006.5
	論文(単著)	「政策への社会学知の可能性—シカゴ学派のスタンスから学ぶこと」(『現代の社会病理』21号, 日本社会病理学会) 31-46頁	2006.9
	論文(単著)	「食品の安全性と企業逸脱」(『立命館産業社会論集』42巻3号) 1-23頁	2006.12
	エッセイ (単著)	「京都大学とシカゴ学派」(『京都大学文学部の百年』, 京都大学文学研究科・文学部) 40-41頁	2006.6
前田 信彦	著書(単著)	『アクティブ・エイジングの社会学—高齢者・仕事・ネットワーク』(ミネルヴァ書房) 全272頁	2006.5
松田 亮三	著書(共著)	「生活習慣・転倒歴」(近藤克則編『(2007) 検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学の大規模調査』, 東京: 医学書院)	2007.3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	著書(共著)	「2 グローバル化の下での比較医療政策」(田中滋・二本立編『医療制度の国際比較』, 東京: 勁草書房) 143-167頁	2007. 1
	論文(単著)	「比較の中でみる日本の医療改革—市場化と商業化に注目して」(『国民医療』 224号) 2-9頁	2006. 5
	論文(単著)	「欧州における健康の不平等に関する政策的対応」(『日本医療経済学会会報』 70号) 1-19頁	2006. 9
	論文(単著)	「社会格差と健康をめぐる日本の課題」(『総合社会福祉研究』 29号) 19-30頁	2006.11
	論文(単著)	「医療におけるコミュニティ・住民エンパワメント: 実践課題分析のための枠組み」(『立命館人間科学研究』 14号) 183-195頁	2007. 3
	研究発表 (単独, 国内)	「欧州の医療財政の経験から何を学ぶのか」(シンポジウム「医療保険財政の国際比較—日欧を中心に」, 第26回日本医療経済学会研究大会, 於: 金沢)	
	研究発表 (単独, 国外)	“Changing Health Care Governance in Japan” (The Third International Jerusalem Conference on Health Policy)	2006.12
松葉 正文	著書(単著)	『現代日本経済論: 市民社会と企業社会の間』(晃洋書房) 全229頁	2006. 4
峰島 厚	論文(単著)	「障害者自立支援法スタート—いよいよ始まる新しい施策のポイントと課題」(全国障害者問題研究会編『みんなのねがい』 06年4月号 (468号), 全国障害者問題研究会出版部) 32-35頁	2006. 4
	著書(共編著)	「措置・支援費制度から障害者自立支援法へ」(浅倉恵一・峰島厚編著「新・子どもの福祉と施設養護」, ミネルヴァ書房) 236-247頁	2006. 4
	著書(共著)	「障害者自立支援法の内容と課題」(鈴木勉・植田章編著「現代障害者福祉論」, 仏教大学通信教育部) 116-128頁	2006. 4
	著書(共著)	「障害者自立支援法の内容と課題」(鈴木勉・植田章編著『現代障害者福祉論』, 高学出版) 116-128頁	2006. 6
	著書(共編著)	「第1章どう変わるのか」14-23頁, 「第2章なにをねらっているのか」24-38頁, 「第3章どうのぞむのか」39-48頁, 「第6章利用手続きの仕組みと利用方法」78-87頁(峰島厚・白沢仁・多田薫編著『障害者自立支援法の基本と活用』, 全国障害者問題研究会出版部)	2006. 6
	著書(共著)	「障害福祉計画と施設事業の移行」(障害者生活支援システム研究会編「障害者の暮らしはまもれるのか—検証・障害者自立支援法」, かもがわ出版) 79-102頁	2006. 8
	論文(単著)	「障害者自立支援法施策における就労・雇用」(日本職業リハビリテーション学会編「職業リハビリテーション20-1」, 日本職業リハビリテーション学会) 9-16頁	2006.10
	学会発表 (単独)	「障害者入所施設の脱施設化にみる居住福祉施策の検討—02年障害者プラン, 障害者自立支援法を中心に」(日本居住福祉学会第6回大会研究発表会)	2006. 5
	テレビ出演 (単独インタビュー)	NHK 総合テレビ「ナビゲーション—揺れる障害者福祉」(NHK 福井放送局, 放映07年6月2日19:30-19:55)	2006. 6
	テレビ出演 (単独インタビュー)	NHK 教育テレビ「福祉ネットワーク—自立を支える支援・ハローワーク敦賀の取り組み」(NHK 教育テレビ, 放映07年1月22日20:00-20:29, 1月29日13:20-13:49, 3月22日20:00-20:29, 3月29日13:20-13:49)	

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
宮下 晋吉	論文(単著)	「P.C.W.Beuth と産業助成協会の設立に関する一考察—設立経過と理念, 『機械の得失』 および『グラスゴー』の検討を中心に」(『立命館産業社会論集』42巻1号) 137-159頁	2006. 6
	論文(単著)	「P.C.W.Beuth と技術導入—技術導入手段としての工業学校, 技術代表, および産業助成協会」(『立命館産業社会論集』42巻2号) 1-23頁	2006. 9
	論文(単著)	「プロイセン産業助成協会と懸賞問題 (1822-1840年) (前篇)—科学技術助成の起源, 『工業経営者』の組織化から『科学の組織化』へ」(『同上』42巻3号) 25-45頁	2006.12
	論文(単著)	「プロイセン産業助成協会と懸賞問題 (1822-1840年) (後篇)—科学技術助成の起源, 『工業経営者』の組織化から『科学の組織化』へ」(『同上』42巻4号) 87-106頁	2007. 3
村本 邦子	著書(共著)	『ステップファミリーの基礎知識—子連れ再婚家族と支援者のために』(野沢慎司, 茨木尚子, 早野俊明, SAJ, 明石書房) 87-101頁	2006. 5
	著書(共著)	『法と心理の協働—女性と家族をめぐる紛争解決に向けて』(二宮周平, 不磨書房) 241頁	2006.11
	著書(共著)	『箱庭療法の事例と展』(岡田康伸・皆藤章・田中康裕, 創元社) 401-411頁	2007. 3
	論文(単著)	「レジリエンス—逆境を生き抜くために, 16」(女性ライフサイクル研究) 5-14頁	2006.11
	論文(単著)	「カッとなる親・無関心な親に育てられた子ども」(『別冊 PHP2006年9月号』) 42-44頁	2006. 9
	論文(単著)	「自分勝手な親にならないために」(『児童心理2006年11月号』) 99-105頁	2006.11
	論文(単著)	「エンパワメント」38-41頁, 「DV 被害者母子支援」122-123頁 (『よくわかるコミュニティ心理学』, ミネルヴァ書房)	2006.11
	論文(単著)	「心理的援助の可能性と限界」14-23頁, 「米国調査に見る法と心理の協働」87-101頁, 「司法臨床—女性と人権」135-171頁 (『法と心理の協働—女性と家族をめぐる紛争解決に向けて』, 不磨書房)	2006.11
	論文(単著)	「女性をめぐる臨床心理学的地域援助」(『現代のエスプリ』) 249-259頁	2006.11
	論文(単著)	「トラウマ治療への箱庭療法適用可能性についての試論」(『箱庭療法の事例と展開』, 創元社), 401-411頁	2007. 2
森田 真樹	著書(共著)	『社会科教材の論点・争点と授業づくり第9巻 “国民的アイデンティティ” をめぐる論点・争点と授業づくり』(原田智仁編, 明治図書) 32-42頁	2006.10
	著書(共著)	『社会科教材の論点・争点と授業づくり 第4巻 論争問題を取り上げた国際理解学習の開発』(小原友行編, 明治図書) 162-173頁	2006.10
	論文(単著)	「社会科教育学会の動向と国際理解教育」(『グローバル時代に対応した国際理解教育のカリキュラム開発に関する理論的・実践的研究 (第2分冊)』(科学研究費補助金: 基盤研究 B (1) 研究成果報告書 (15330195), 研究代表者: 多田孝志) 100-110頁	2006. 5
	論文(単著)	「一枚のラベルから世界が見える」『社会科教育』明治図書) 9 頁	2007. 2
	研究発表 (単独, 国内)	「学校インターンシップの成果と課題」(全国私立大学教職課程研究連絡協議会第26回研究大会)	2006. 5
森西 真弓	論文(単著)	「吉田玉男さんの芸と人」(『上方芸能』163号, 『上方芸能』編集部) 76-81頁	2007. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
森西 真弓	新聞記事 (単著)	「古典力」(『読売新聞』, 読売新聞社) 2007年7月26日 (16面), 9月27日 (22面), 10月25日 (36面), 11月22日 (24面), 12月27日 (16面)	2006.7-12
門田幸太郎	論文(単著)	「Visual Basic. NET による応答の学習プログラム—英語構文の学習に向けて」(『立命館産業社会論集』42巻1号) 161-181頁	2006.6
	学会発表 (共同, 国外)	“My decision is better than the computer's: An experiment on illusion of control” (The 26th International Congress of Applied Psychology (Athens))	2006.7
柳沢 伸司	論文(単著)	「『ジョンベネ事件』報道の問題点」(『聖教新聞』2006年9月12日) 9頁	2006.9
	論文(単著)	「NIE の現状と課題」(『京都新聞』2006年12月25日朝刊) 17頁	2006.12
	調査報告 (単著)	「北欧 (外国新聞の概況)」(日本新聞協会編『日本新聞年鑑06-07』, 電通) 91-92頁	2006.11
山下 芳樹	著書(共著)	『新しい高校物理の教科書』(講談社ブルーバックス) 全374頁	2006.7
	著書(監修)	「キュリー夫人が発見した放射線とは」の監修 (『世界の発明発見科学史 (第4巻)』, 学習研究社) 4頁	2007.2
	著書(監修)	『アルキメデスの発見』(『世界の発明発見科学史 (第2巻)』, 学習研究社) 全4頁	2007.2
	論文(単著)	「故きを温ねて新しきを知る—教材作成の原点をアルキメデス, ガリレイに探る」(『高校理科研究』15号, 大日本図書) 1-6頁	2007.1
	論文(共著)	「特色ある教育実習プログラムの試行的取り組み (Ⅱ) —本格的実施に向けての成果と課題」(『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』35号, 広島大学学部・附属学校共同研究機構) 18頁	2007.3
	報告書(共著)	「初等教育教員養成コースにおける学生の目的意識を高める学校体験に関する研究」(平成18年度共同研究プロジェクト報告書, 広島大学大学院教育学研究科) 25頁	2007.3
	学会発表 (単独, 国内)	「子どもの探求心, さらには問い続ける姿勢を育む教材開発はいかにあるべきか—5年生教材「てこのつりあい」を事例として」(日本理科学教育学会第56回全国大会, 於: 奈良教育大学)	2006.8
山本 耕平	著書(共著)	「精神障害者の福祉課題」(『現代障害者福祉論』, 高学出版) 201-211頁	2006.6
	著書(共著)	「精神障害者の社会的支援と障害程度区分認定」(『障害者のくらしはまもれるか—検証・障害者自立支援法』, かもがわ出版) 59-77頁	2006.7
	論文(単著)	「市民としての精神障害者の生活」(『社会福祉研究』95号, 財団法人鉄道弘済会) 44-51頁	2006.4
	論文(単著)	「地域で生きる—権利主体としての精神障害者の地域生活を目指して」(『福祉のひろば』2006年4月号, 総合社会福祉研究所) 15-20頁	2006.4
	論文(単著)	「トラウマケアとソーシャルワーカー実践からの学び」(『トラウマティック・ストレス』Vol.5 No.1, 日本トラウマティック・ストレス学会) 74-77頁	2007.2
	著書(共著)	「危機介入」(『精神保健福祉士養成講座6 (改訂6)』, 中央法規出版) 144-148頁	2007.2
	学会発表 (共同)	「麦の郷実践の根拠と課題」(『日本精神障害リハビリテーション学会要旨集』日本精神障害リハビリテーション学会) 122頁	2006.12
	学会発表 (共同)	「不登校・ひきこもり支援を重点とした地域生活支援センターの成果」(『同上』) 121頁	2006.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
山本 隆	翻訳(共訳)	「ノーマン・ジョンソン著「福祉の混合経済: 国際比較の視点」」(『立命館産業社会論集』42巻3号) 165-171頁	2006.12
	学 会 報 告 (単独, 国内)	演題「構造改革の検証と新たな地方の役割—財政論の視点から」(社会福祉学会北海道セミナー, 日本社会福祉学会)	2006. 7
リム ボン	論文(単著)	「歴史都市・京都の個性と魅力づくり—その具体策を考える」(『都市研究・京都』, 20号), 45-56頁	2007. 3
	研 究 発 表 (単独, 国外)	“A “Buraku” Community and the Power of Place: Regeneration of a Historic City, Kyoto” (U.S.-Japan Innovators Project, June 16th, held in San Francisco, sponsored by the Japan Society, New York)	2006. 6
	研 究 発 表 (単独, 国外)	Fukuroji: The very narrow and small alleys of downtown Kyoto, “Small Spaces + Big Imagination = Life in the Modern City” (U.S.-Japan Innovators Series Event, sponsored by the Japan Society in New York)	2006. 6
和田 武	著書(監修)	『地球温暖化対策ハンドブック・自然エネルギー編』(全国地球温暖化防止活動推進センター) 全27頁	2007. 3
	論文(単著)	「なぜ市民風車が普及促進につながるか」(『風力エネルギー』 Vol.30, Np.2, 日本風力エネルギー協会) 123-130頁	2006. 6
	学 会 発 表 (共同, 国内)	「日本とドイツの再生可能エネルギー普及政策と効果」(日本環境学会第32回研究発表会, 於: 島根大学)	2006. 6
	学 会 発 表 (共同, 国内)	「自治体における自然エネルギー普及政策とその効果—太陽光発電設置促進滋賀モデル推進事業を中心に」(同上)	2006. 6
	学 会 発 表 (共同, 国内)	「地球温暖化防止の持続可能なエネルギー教育」(日本環境教育学会第17回大会, 於: 酪農学園大学)『発表要旨集』 35-38頁	2006. 8